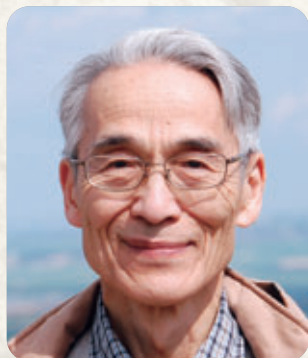


「祈りのリバイバル」



前お茶の水聖書学院 学院長

世良田 湧侍

今から約35年前、1980年に、EHC（全国家庭文書伝道協会）が発行した『世界を変える祈りの学校』という冊子がありました。それを使ってその年は全国的に「祈りの学校」のキャンペーンが行われました。トラクトを一軒一軒配布する傍らお祈りがなされたのでした。私も若輩ながらその祈りの学校のキャンペーンのインストラクターの一人としてご奉仕をしたのを想い出します。その冊子の冒頭に、「世界中で祈りほど大きな働きはありません。ところが不幸なことに、このクリスチャンの奉仕の重要部門で、人々を訓練することが最近ほとんどなされてきませんでした。1世紀前でさえ、E. M. バウンズは鋭く問いかけています。『祈りは、教会学校の一貫したカリキュラムになっているだろうか。日曜学校、家庭、あるいは大学でわれわれは、祈りの学校の卒業生を出しているだろうか。教会は祈りという大学からの卒業証書もらった人々を生み出しているだろうか。』と訴えています。

クリスチャンになった私たちは、礼拝、宣教、奉仕、援助など様々の働きを進めて忙しい日々を送っています。その中で一番重要な原動力である「祈り」を日々実行しているでしょうか。信仰生活と祈りの生活は切り離すことができません。また「多く祈った者は、多く学んだ人」（ルター）ともいいます。私たちが置かれている環境で祈りを実行し、祈りを身につけ、祈る聖徒、祈る働き人とならせていただきましょう。イエス・キリストに従った弟子たちは、主が祈っておられるのを見て、「ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」と祈ることを求めました（ルカ11:1）。このようにぜひ祈りを求め、祈りを学ぼうではありませんか。身のまわりの大切な働きがたくさんある中で、祈りは最優先の働きではないでしょうか。

幸い東京都心に常設の「祈りのセンター」が設けられ、働きが続けられています。祈り会が宣教の原動力となって日本のリバイバルが祈りによって興されますように、切に願ってやみません。

TPCの活動目的

- (1) 閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2) 超教派として活動する
- (3) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する